

IV-3 早期警戒システムと食料安全保障－2007 年度調査報告－

松村圭一郎（京都大学大学院人間・環境学研究科）

1. 研究の目的

アフリカの旱魃など食糧危機を引き起こす政治的・社会的要因を分析するとともに、旱魃・食料危機に関する「早期警戒システム」が、農村社会のレジリアンス・フレームワークに与える影響をあきらかにする。

2. 2007 年度の調査概要

2007 年度は、9 月～11 月にザンビアの首都ルサカおよび南部州において、ザンビアの食料飢饉の歴史的変遷、政府・国際機関・援助団体などが行う旱魃対応や食糧援助に関する資料収集と現地調査を行った。主な調査対象の概要は以下の通りである。

<首都ルサカ>

- ・ CSO : Vulnerability Assessment Committee (VAC) の脆弱性評価調査に参加した職員へのインタビューと資料収集
- ・ FAO : Emergence Coordinator、VAC 調査メンバー／Programme Against Malnutrition (PAM)メンバーへのインタビューと資料収集
- ・ Disaster Management and Mitigation Unit (DMMU) : Coordinator へのインタビューと資料収集
- ・ University of Zambia (UNZA) / Institute of Economic and Social Research (INESOR) : ザンビアの旱魃・食糧危機に関する歴史研究資料と関係機関のレポート等の収集

<南部州・シナゾングウェ地区>

- ・ DACO オフィス : 2004/05 の旱魃後の被害状況や食料援助に関するインタビューと資料収集
- ・ Kalilu Development Foundation (KDF) : マネージャーや職員へのインタビューと資料収集
- ・ World Vision International - シナゾングウェ・オフィス : Relief programme officer へのインタビュー
- ・ シナゾングウェ地区・キャンプオフィサー (Nkandabwe・Siameja) へのインタビュー
- ・ 世帯調査・雨量計設置村落 (Siameja、Sianemba、Chanzika、Kanego、Siachaga) での予備的調査
- ・ シナゾングウェ地区南部への広域調査 (Maamba-Siameja-Kafambila)

3. 調査結果の概要

ザンビアの食糧危機に関する歴史研究資料からは、ザンビアが19世紀よりたびたび食糧危機に見舞われてきており、その原因も、雨量不足による旱魃だけでなく、民族間の紛争やレイディング、戦時の徴兵や鉱山開発にともなう労働不足といった社会・政治的な要因が関わってきたことがあきらかになった。また、20世紀初頭の植民地期より、外国のキリスト教系のミショナリーや政府が主導した食料危機への対応がはじまっていたものの制度的・資金的な限界が大きかったこともわかった。また、そうした外部からの援助が展開するようになったことで、ローカルレベルの食糧危機への自発的対応（救荒植物への知識・首長主導の援助など）が失われてきた可能性も指摘されていた。

シナゾングウェ地区で集中的に調査した2004/05の旱魃への政府やローカルNGOなどの対応からは、さまざまな異なる組織が独自の基準をもちながら食糧援助を行っている実態があきらかになった。2003年ごろから本格的に組織化が進められた副大統領府（OVP）のDisaster Management and Mitigation Unit（DMMU）と、その末端で効率的な援助を指揮しているDistrict Disaster Management Committee（DMC）が、この2005年から06年にかけてのシナゾングウェ地区の食糧危機において、頻繁な会合をもちながら各援助組織の関係を調整していることもみえてきた。ただし、会合の議事録などからは、各組織の地域的な役割分担などは比較的うまく進められているものの、それぞれのターゲットや手法の違いから、どこまで食料を必要としている地域や人々に援助が行き渡っているのか、意見の対立や不透明な部分も多いことがみえてきた。

4. 今後の課題と調査計画

2008年度は、2007年度の調査結果をふまえながら、さらにシナゾングウェ地区における各組織の援助活動や食料配給の実態を調査していく。政府機関をはじめ、各援助組織がどのような援助計画を策定し、実行に移しているのか、そして、それらの個々の計画がローカルのコミュニティレベルにおいて、どのように受容されているのか、現地調査をもとに明らかにしていきたい。とくに、DMMU主導で進められている、食料配布の末端組織（サテライト・コミッティー）がどれほど効果的に援助の実施に関与しているのかが、ひとつの焦点となる。